

平成24年度

市教研音楽部会 学習指導案

研究主題

伝えよう、私の音楽、私の心

<研究の視点>

- 視点1 一人一人の思いや意図をもつために
- 視点2 自分の思いや意図を表現するために
- 視点3 評価を生かした指導をするために

日時 平成24年6月19日(火) 14:00~

場所 授業 高浜中学校4階 音楽室
協議会 高浜中学校1階 図書室

授業者 阿部伸子
展開学級 1年1組
題材名 混声合唱の響きⅠ ~「夢の世界を」~

音楽科学習指導案

学 級 1年1組
場 所 音楽室
授業者 阿部 伸子

- 1 題材名 合唱の響きを楽しもう
- ・ Michael, Row The Boat Ashore (階名で歌ってハーモニーを楽しもう)
 - ・ パフ (へ音譜表を読んで混声合唱を楽しもう)
 - ・ 混声三部合唱「夢の世界を」

2 題材について

(1) 題材感

本校では学校行事の中で合唱コンクールが大きな位置を占めている。そのため音楽科では、前期の授業の多くを合唱を中心とした歌唱領域で展開している。

合唱を行う場合、「重なる音や旋律が作るハーモニーが美しい」と感じ、「そのハーモニーを自分達で作れることが楽しい」と感じられることが何より大切であると考え。そのためには、音と音の距離(音程)を正しく認識し、自分の声で正確に再現できるようになることが必要となってくる。

本題材では、まず、階名唱を徹底して行うことで、正確な音程感覚を身につけ、さらにいろいろな声部を全員が経験することで、ハーモニーの構成や、パートの役に対する認識を深めることを狙っている。学習指導要領においては、1学年の2 内容A表現(1)ウ「声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現と工夫しながら合わせて歌うこと」に関連するものである。本題材の学習をとおして、中学校で初めて経験する混声三部合唱の響きを楽しみ、クラスの合唱を意欲的に作り上げる姿勢を育てていきたいと考える。

(2) 生徒の実態 1年1組 37名

小学校で頭声発声を丁寧に指導されており、声をよく響かせることができている。校歌の斉唱では、積極的に声を出して歌う姿が見られた。指揮を順番で行う際もほとんどの生徒が4拍子の指揮を行うできている。本題材の始めに学習した「Michael, Row The Boat Ashore」では、階名唱や後半のハーモニー作りにも意欲的に取り組み、小グループを作っての練習も熱心に行う姿が見られている。

先日行ったアンケート調査では、「合唱するときハモリを感じているか」という問いに対し、

・いつもそうしている 11人 ・たまに感じる 20人 ・何も感じない 6人

という結果であったが、授業中の様子などを見ると、「感じない」のではなく、「どんな状態がハモっている状態なのか」が分からないのではないかと考えられる。

読譜についても、小学校でのリコーダーや鍵盤ハーモニカの学習の経験から、階名を読むことに対して、あまり抵抗を感じてはいないようである。しかしながら、自分の声を楽器にして表現する歌唱の場合、階名から音程を導き出すのではなく、「歌は聴いて覚えるもの」と思っている生徒が半数近くいる。

本クラスの場合、クラスの中にピアノ伴奏を経験したことのある生徒がおらず、今後、合唱コンクールへの取り組みが心配される面もある。また、学年全体を見ても、学年が上がるにつれて難しくなっていく合唱曲に対応できる技量を持つ伴奏者が少なく、場合によってはアカペラの合唱曲を中心にし

なければならぬことも考慮し、自らの声によって正確な音程を作る技能を向上させていきたい。そのためにも、本題材の学習を通して、まず合唱の楽しさ、ハーモニーを作ることの面白さを実感させ、協力して1つの合唱をつくりあげることの意義や、喜びを感じさせたい。

(3) 指導感

本題材の中で扱う教材「夢の世界を」は教科書では2年生の教材として出てくる楽曲であるが、本校では、校内合唱コンクールの1年生の課題曲となっている。小学校で歌われることも多く、親しみやすい旋律であるとともに、ハ長調なので階名唱も行いやすい。曲の前半部分は斉唱で、後半の三部のハーモニーも、和音の進行に従った素直な音程なので、歌い易い曲であると考えられる。しかしながら、昨年の1年生の合唱の様子をみていると、前半部分の最後の音（高いド）からアルトパートの最初の音（ソ）への移動に苦労している様子がみられた。また、男声パートでは、後半の合唱部分の楽譜の記述がヘ音譜表に変わるため、「斉唱部分の最後の音と男声パートの歌い出しの音が、実際は同じ高さである。」ということがなかなか理解できず、混乱している場面が多くみられた。その結果、「主旋律ではないパートは面倒だから嫌だ」という声も度々聞かれた。

1年生の生徒たちは、小学校での合唱の経験もあり、合唱を歌う際には「ハモる」という響きあう感覚を、なんとなくではあるが感じている。しかしながら、1年生のこの時期では、あくまでも「主旋律とそれ以外のパート」という感覚で捉えている場合が多く、それぞれのパートの旋律が響きをつくり、音楽を構成する上での重要な要素である、という所まで考えられていないのが現状である。そこで、本題材「合唱の響きを楽しもう」では混声三部合唱に取り組む前段階として、階名唱と階名によるハーモニー作りを徹底して行い、正しい音程感覚と、旋律が重なり合ってハーモニーを作る課程を再確認させることにした。さらに、全員でヘ音譜表の読譜を学習することや、主旋律ではないパートを全員で歌い、それぞれの旋律が主旋律とどのように関わっているのかを知ることで、各パートの持つ意義を理解しつつ、合唱の楽しさ、ハモった時の感動を味わい、合唱に親しむ姿勢を養っていきたいと考える。

3 題材の目標

- (1) 正確な音程を楽譜から読み取ることができる。
- (2) 混声合唱の仕組みを知り、それぞれのパートの役割を理解することができる。

4 題材の評価の規準

ア 音楽への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜に示された音に注意し、演奏する努力をしている。 ・歌う曲に合った発声で歌おうとしている。 ・グループ活動やパート練習において、仲間と協力して練習している。
イ 音楽表現の 創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・他のパートの音を聴いて自分の音を歌うことができる。 ・和音の進行に伴う響きの変化を感じとることができる。 ・合唱の中から自分のパートの音を聴きとることができる。 ・音が重なって響く瞬間をとらえ、響きを味わって歌っている。
ウ 音楽表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な音程で歌っている。 ・曲の旋律にふさわしい、声の響きを意識して歌っている。

5 題材の指導計画及び評価計画（10時間扱い）

	教材名	時間	学習内容と活動	学習活動における具体的評価基準	共通事項
第1時	「Michael, Row The Boat Ashore」	2	<ul style="list-style-type: none"> 音階を階名唱する。 教科書 P16 「Michael, Row The Boat Ashore」 のそれぞれの旋律を階名唱をする。 後半のハーモニーを合唱する。 	<ul style="list-style-type: none"> ウ 正確な音程で歌っている。 ア 楽譜に示された音に注意し、演奏する努力をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 旋律 リズム 形式構成 テクスチャ
第2時					
第3時		2	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞をつけて歌う。 ヴォーカルグループを作る。 グループ毎に練習する。 発表会を行い、相互評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> イ 和音の進行に伴う響きの変化を感じとることができる。 ア グループ活動やパート練習において、仲間と協力して練習している。 	<ul style="list-style-type: none"> リズム テクスチャ 速度
第4時					
第5時	「パフ」	1	<ul style="list-style-type: none"> ヘ音記号を読んで混声二部合唱を階名唱で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ア 楽譜に示された音に注意し、演奏する努力をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 旋律 リズム テクスチャ
第6時	「夢の世界を」	1	<ul style="list-style-type: none"> 曲の全体像をつかむ。（合唱形態・拍子・主旋律） 主旋律の階名唱を全員で行う。 アルトパート・男声パートの階名を楽譜に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ア 楽譜に示された音に注意し、演奏する努力をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 旋律 リズム 形式構成
第7時（本時）		1	<ul style="list-style-type: none"> 主旋律でない旋律を把握する。 全員でアルトパート・男声パートを練習する。 2つのパートで合唱する。 		
第8時		1	<ul style="list-style-type: none"> ソプラノ、アルトのパート分けを行う。 パート練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ウ 正確な音程で歌っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 旋律 リズム テクスチャ 音色
第9時		2	<ul style="list-style-type: none"> 合唱でハーモニーを作る練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> イ 音が重なって響く瞬間をとらえ、響きを味わって歌っている。 	
第10時			<ul style="list-style-type: none"> 強弱や速さの変化等の表現の工夫を行う。 		

6 本時の展開

(1) 本時の目標（7/10）

- ① 合唱をつくる各パートの音を把握することができる。
- ② 主旋律から各パートの音にスムーズに移動することができる。

(2) 視点とのかかわり

視点2「自分の思いや意図を表現するために」に対する手だてとして、合唱におけるそれぞれの役割の重要性を十分に認識し、正しい音程を把握し、ハーモニーを作り出す手段を得ることが重要であると考えている。

(3) 展開

学習内容と活動	○教師のかかわり ☆共通事項 学習活動における評価の具体規準	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・「夢の世界を」の主旋律を階名唱する。 ・本時の課題を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音と音の距離を階名で意識するように助言する。 ☆旋律 リズム テクスチャ ○本時の課題を板書で確認する。 	板書
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>ハーモニーを作る旋律の役割を知ろう</p> </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ・アルトパートの階名唱を全員で行う。 ・主旋律からアルトパートへ移る部分（ドからソへの移動）を取り出して練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽譜でのアルトパートの場所を板書で確認する。（ト音譜表の下部） ○楽譜を見て、音の変化を実感しながら歌うように助言する。 ○音の距離を意識するように助言する。 ☆旋律 リズム 	板書
<ul style="list-style-type: none"> ・男声パートの階名唱を全員で行う。 ・男子は男声パートを、女子はアルトパートをそれぞれ階名で歌い、互いに聞き合う。 ・後半の合唱部分を男子は男声パートを、女子はアルトパートを階名で歌い、二部合唱をす 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽譜での男声パートの場所を板書で確認する。（ヘ音譜表） ○ヘ音譜表の読み方を確認する。 ○主旋律の最後の音が、男声パートのはじめの音であることを知らせる。 ☆旋律 リズム ○合唱にはそれぞれの役割があることを意識させる。 ア 楽譜に示された音に注意し、演奏する努力をしている。 	板書
<ul style="list-style-type: none"> ・階名で前半の斉唱部分から歌い、合唱部分からアルトと男声に分かれて合唱する。 ・1番の歌詞で前半の斉唱部分から歌い、合唱部分からアルトと男声に分かれて合唱する。 ・本時の学習をふりかえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ピアノでそれぞれのパートの音を弾き音程を確認させて歌わせる。 イ 和音の進行に伴う響きの変化を感じとることができる。 ○ピアノで伴奏を弾く。 ○合唱部分の歌い出しの音に注意させる。 ☆旋律 リズム テクスチャ 	
<ul style="list-style-type: none"> ・次時の予定を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○アルトパートと男声パートの旋律を理解して歌うことができたか確認させる。 ○次回は女声をアルト、ソプラノの2パートに分けて三部のハーモニーを作ることを知らせる。 	

